

集会アピール(案)

私たち、「米軍 X バンドレーダー基地反対・近畿連絡会」は、本日、米軍基地建設が進む京丹後市・宇川の農業会館に結集しました。本日の集会には、地元「憂う会」や「近畿連絡会」をはじめ、韓国、沖縄、また岩国や神奈川で米軍基地撤去を闘う仲間が結集しています。

私たちがここに結集したのは、宇川地区と京丹後市の人々に「今からでも声を上げれば米軍基地建設は止められる」こと、「基地を撤去することができる」ことを伝えるためであり、いまひとつは「京都にも沖縄にも、韓国にも、世界のどこにも米軍基地はいらない」の声を日米両政府と京都府、京丹後市に知らしめるためです。

■ 命と暮らしを守ろう！10月レーダー搬入・12月基地運用開始に反対しよう！

5月27日に基地建設工事に着工した米軍は、9月20日から軍人と軍属90人が京丹後に上陸を開始しました。残り70人もすぐでしょう。京丹後、京都府及び近畿は、憲法や国内法を無視する「日米安保・日米地位協定」が支配するところに変化しました。9月17日の京丹後区長会で、近畿中部防衛局の榎賀企画部長は言いました。「レーダー搬入は軍事機密であっていつなかわからない、例えわかったとしてもレーダーの安全を確保するために住民には知らせないこともある」と。まさにそれは、住民の安全・安心よりも米軍の軍事機密と軍事行動を優先する日米地位協定の本質を示すものでした。

米軍人・軍属による事件・事故は必ず起こり、私たちは被害者として苦しむことになるでしょう。断じてこんな結果を待つわけにはいきません。

私たちは、この美しい京丹後の環境を子や孫に残し、命と暮らしを守るために安全と安心を確保し、東アジアの平和を求めているのです。この想いを実現するためには、これらを踏みにじり破壊する日米両政府と闘い、京都府や京丹後市に私たちの要求を受け入れさせねばなりません。10月レーダー搬入、12月基地運用開始と対決していこうではありませんか。

■ 戦争への道を許さない！主権者は私たちだ！

安倍政権は、これまで元日本軍「慰安婦」の女性たちの尊厳を傷つけ、靖国神社参拝や教科書改悪・領土問題で韓国など東アジア諸国民を挑発し、政治的緊張をつくりだしてきました。今回、経ヶ岬に米軍 X バンドレーダーが配備されれば、SM-3搭載のイージス艦が母港としている舞鶴軍港、福知山の陸上自衛隊基地、滋賀県・饗場野の日米両軍の軍事訓練場、宇治・桂の兵站基地、これらとつなぐことによって巨大な軍事要塞が出来上がります。それは、東アジアの軍事的緊張を一段と高めるものです。

他方で安倍内閣は、不況克服の成長戦略としてアジアをはじめ世界各地への企業の海外進出を支援しています。現地アジアでは日本の低賃金政策と労務支配に対して暴動的な争議が多発しています。これら海外の企業権益を防衛するための海外派兵を狙っています。それは日米両政府を中心とした集団的自衛権の行使の具体化であり、憲法九条の破壊です。私たちはアジアや世界の人々に対する加害の役割を拒否します。また、政府は、米軍 X バンドレーダー基地の配備は国策であり、外交・防衛問題は政府の専権事項だと言います。しかし、その国策が地域住民の「命と暮らし」を害し、東アジアに軍事的緊張をつくり、戦争の危険を画策するものであるからこそ私たちはこれも拒否します。

この美しい大地と海と空は、ここに住んでいる住民の共有財産であり、この共有財産を管理・運用するのは主権者である住民と私たちです。

■ 声をあげ、闘いに立ちあがれば基地を撤去することができる！

みなさん、米軍基地撤去に向けた闘いは必ず勝利します。基地の自由使用や管理を認めないこと、彼ら軍人・軍属が招かれざる「客」であることを知らしめ、日米地位協定を日本や韓国の国内法に従わせることです。1991年、フィリピンでは勝利し、すべての米軍基地が撤去されました。沖縄の人々は今、政府に対して辺野古の海を埋め立てさせない死闘を繰り広げています。韓国、そして日本の岩国や神奈川などでも地道な闘いが続けられています。

この闘いの勝利にはどうしても地元の主権者の勇気ある闘いと国際連帯が不可欠です。

今日の闘いを契機に東アジアの連帯を固め、全ての米軍基地を撤去する闘いに勝利しましょう。

2014年9月28日

京都にも沖縄にも東アジアのどこにも米軍基地はいらない！
Xバンドレーダー搬入反対！9・28全国集会 in 京丹後 参加者一同